

マタイ 2 : 1-12 「愚かな人、賢い人」

マタイ 2 : 1-12

2:1 イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。2:2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」2:3 それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。2:4 そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。2:5 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。2:6 『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』」2:7 そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。2:8 そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」2:9 彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。2:10 その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。2:11 そしてその家に入って、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてさげげた。2:12 それから、夢でヘロデのところへ戻るなという戒めを受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った。

導入

先週は、マタイ 1 : 18-25 から、処女受胎についていくつかのことを学びました。

その内容を振り返ってみましょう。クリスマスで一番大切なのは、ケンタッキーフライドチキンやクリスマスケーキ、プレゼントなどではなく、「処女受胎」です。つまり、神が天の栄光を離れて、小さな種の形でこの世に来てくださったことです。この種は、マリヤという処女の胎内に宿り、通常の胎児と同じように育って赤ちゃんになりました。

マリヤは、この世に生まれた人間なら誰もが持つ罪の性質を持っていました。もしヨセフが本当の父親であれば、イエスは罪のない神の御子になり得ません。けれども、ヨセフはマリヤの赤ちゃんの父親ではありませんでした。これは、聖霊による奇跡です。

処女受胎の目的は、この世に救い主を送るためでした。罪から人を救うためです。人は誰もが罪の性質を持ってこの世に生まれます。それは、初めの人アダムが神に背いたからです。これが原因で、罪と死がこの世に入り込みました（ローマ 5 : 12）。

誰も永遠に生きることはできません。私たちは皆、罪のせいで神の御怒りを受ける運命を負っています（ローマ 5 : 17-18）。ですから、私たちには、罪の罰から救ってくれるお方が必要なのです。イエスは、神が天から遣わしてくださった救いの使者でした。神がご自身を低くしてくださったのです。

この出来事は、それが起こる約 750 年前に預言されていました（イザヤ書 7 : 14）。神はこの出来事をずいぶん前にご計画しておられました。実は、創世記 3 章でアダムが罪を犯した後、すでに神は救い主を送ることを約束しておられます。

私たちは神のみことばを信頼しなければなりません。天使ガブリエルがイエスについて語った言葉をヨセフが信じたように神のみことばを信じるのです。イエスは私たち一人一人の救い主であること、イエスが神の御怒りから私たちを救うために来てくださったこと、私たちの罪のために十字架で死なれ、死からよみがえられたことを信じない限り、クリスマスの本当の喜びはありません。

では、マタイの福音書にあるクリスマスの話をつづけて学んでいきましょう。(マタイ 2 : 1-12)

先ほど読んだ箇所には、おもにふたつの要点があります。

ひとつは、ヘロデの怒りと欺き、次に、博士たちの礼拝と贈り物を送る行為です。

今朝はたった 20 分しかありませんから、このクリスマスに私たちが応用できる大切な教えを限られた時間内にできるだけお伝えするようにします。

1. ヘロデの怒りと欺き (1-8 節)

まず、ヘロデ王について知る必要があります。王が怒った理由も知らなければなりません。そうすることで、現代においてもイエスやキリスト教の福音に腹を立てる人がなぜいるのか理解するのに役立ちます。

ここに登場するヘロデ王は、ヘロデ大王として知られる人物で、新約聖書に登場するヘロデ王の一人目の人物です。

もともと彼は、ユリウス・カエサルの父によって、ガリラヤの統治者に任命されました。その際、異邦人の統治者に反対するユダヤ人ゲリラ隊の鎮圧に成功しました。しかし、パルティア人がイスラエルに侵攻すると、ローマに戻りました。紀元前 40 年ごろのことです。ヘロデは、ローマの元老院によって、「ユダヤの王」と宣言されました。

翌年、ヘロデはイスラエルに攻め入り、数年の戦いを経てパルティア人を追い出しました。(このことで、ヘロデはしばらく人気を得ました。)

こうして、イスラエルにヘロデ朝ができました。

ヘロデはユダヤ人ではなく、エドム人だったので、ハスモン朝の血を引くマリムネと結婚しました。

自分が治めるユダヤ人に受け入れられるために、こうしたのです。

ヘロデは非常に聡明で、勇敢な戦士でもあり、雄弁で、外交にも長けていました。

いくつか善い働きもしており、財政難の時期に減税措置として住民にお金を返金したり、神殿の再建を始めたり、娯楽施設を提供したりしました。

マサダ要塞を作ったのも彼です。イスラエル旅行中、私もここを訪れましたが、素晴らしい場所でした。

一方、ヘロデは残虐で非情な面もありました。

ヘロデは、嫉妬深く、猜疑心が強く、自分の権威や立場が脅かされるのを恐れました。

妻の弟を水死させ、妻を殺し、息子たち 3 人も処刑しました。

彼は優しい人ではありませんでした。その野蛮な行為の総仕上げは、ベツレヘムにいる 2 歳以下の男児をすべて殺させるというものでした。

ヘロデは、博士たちが町に来た時、腹を立てました。その理由は 2 節に記されています。

マタイ 2:2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」

ヘロデは、権力を失うことを恐れました。自分に代わって他の誰かが王になろうとしているのでは、と恐れたのです。

それで、うまくこの状況を操ろうとします。

マタイ 2:8 そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」

しかし、12 節を読むと、最終的には神のおっしゃるとおりになったことがわかります。

マタイ 2:12 それから、夢でヘロデのところへ戻るなどという戒めを受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った。

ヘロデは欺きを企てましたが失敗しました。神がヘロデの心の内をご存じだったからです。

真理と適用

ヘロデは、立場が脅かされると、怒りました。自分がユダヤ人の王だったので、イエスにユダヤ人の王になってほしくないと考えました。

今日も同じことが起こっています。人は、イエスを人生の王とし、救い主として信頼し、神のみことばである聖書の權威に従うよう迫られます。

しかし、人は自分の好きなように生きればよいと現代社会やメディアは教えます。

自分で何が正しいかの基準を設ければよい、同性愛を好むなら、それはそれでよい、と教えます。

神のことばや聖書に従いたくなければそれでよい、と教えます。

善悪の絶対的な基準などなく、自分らしいかどうかで判断すればよいと教えます。

この世を造った創造主はいない、死んでも裁かれることはない、天国も地獄もないと教えます。

そんな状態ですから、イエスの言葉を突き付けられると、自然と腹が立つわけです。

聖霊が力を持って働いておられるとき、イエスの教えに対して、たいていふたつの反応に分かれます。腹を立てる人と、興味を持つ人です。

このクリスマス、皆さんが腹を立てるのではなく、興味を持って、もっとイエスのことを知ってくださるよう願います。

2. 東方の博士たちの礼拝と贈り物 (9-12 節)

ここに登場する東方の博士たちは、どんな人でしょうか。この話はよく知られていますが、その内容はずいぶん脚色されています。今日、私はその脚色を取り去り、この人たちについて聖書が語る歴史上の事実だけを皆さんにご紹介したいと思います。

東方の博士に関する確かな事実は、マタイの福音書に記されたことのみです。それが何人であったかは記されていません。3 人だけだった可能性は低いでしょう。当時、旅をするときは危険から身を守るために小さな隊を組んで旅しました。

ですから、おそらく護衛やしもべを含むと、30 人ほどの集団だったでしょう。

彼らの名前や、乗り物についても記されていません。具体的な国名も記されていません。ただ、東から来たとだけ記されています。つまり、彼らはイスラエルより東に住んでいたのです。

博士が最初に登場するのは、紀元前 7 世紀で、メディア人の部族であることがわかっています。

博士は、その部族では祭司の役割がありました。

博士は、天文学や占星学を身につけました。

天文学は、星や惑星を科学的に検証する学問です。

一方、占星学は、星の位置や動きが人間の営みに及ぼす影響を見極める技や習わしです。

現代では、女性向けの雑誌や新聞で取り上げられたり、日本ではショッピングモールに占い師がいたりします。

この人々には、神がモーセに与えられたのと類似したいけにえの習慣がありました。

彼らには、あらゆるオカルト的な習わしがあり、中でも、夢の解き明かしの能力があることで知られていました。

ダニエル書を読むと、バビロンで博士たちはもっとも地位の高い官職であったことがわかります。

神はダニエルにネブカデネザル王の夢の意味を解き明かさせました。その内容は、博士たちが誰ひとりとして解き明かせないものでした。こうして、ダニエルはバビロンのすべての知者たちをつかさどる長官に任命されました（ダニエル 2 章）。

このように、地位の高い天文学の専門家たちが、東のほうからはるばる旅してきました。それまでに記録のない新しい星が観測されたからです。

神は、占星学者に見えるように、星のように見える何かを作られました。しかし、家のすぐ上に見えたのですから、何万光年ものかなたにある星ではなかったことがわかります。これは、星ではなく、神の奇跡でした。

また、これが輝き続けたという根拠もありません。博士たちはエルサレムに着いた時、ユダヤの王がどこでお生まれになったかと尋ねなければならなかったのですから。

学者たちが呼ばれてキリストのお生まれになる場所がわかると、またその星は輝き始め、イエスがおられる場所まで博士たちを導きました（9 節）。

神は、ヘロデではなく、博士たちをその場所に導くことを望まれました。

この時点で、ヨセフとマリヤ、そしてイエスは、もう馬小屋にはいません。借家にいました。

11 節には、博士たちが家に入ってイエスを伏し拝んだとはっきり記されています。彼らが拝んだのは、母親のマリヤではなく、赤子のイエスでした。

ジョン・マッカーサーは自身の注解書でこう記しました。「正しい礼拝は、常に、正しい捧げ物、正しい学び、正しい奉仕の唯一の基盤でなければならない。」

気前よく捧げても、神に愛され神を愛する関係抜きにささげるなら、それは空しいささげものです。

聖書に基づいた正統な教えを学んでも、真理の源である神ご自身を知り、このお方に頼るのでなければ、これも空しい知識です。

祭司長や学者たちは、犠牲的に神に仕えていましたが、人の賞賛を得るために、肉の力でそれをなしていました。

これは空しい奉仕です。本当の意味でささげ、学び、仕えたいなら、イエスをとおして個人的に神を知る必要があります。

では、博士たちの贈り物について見ていきましょう。

1. 黄金 — 王にふさわしい贈り物

この世の救い主は、この世の本当の王でもあられます。このお方を人生の主であり王であると認めない人にとっては、救い主ではありません。

イエスはあなたの救い主なる王ですか。それとも、健康、富、繁栄をもたらしてくれるただの幸運のお守りですか。

金は、もっとも価値の高い金属であり、エジプトに逃れなければならなくなる家族にとって、経済的なニーズを満たしてくれる実用的な贈り物でもありました。

2. 乳香 — 祭司にふさわしい贈り物

これは、非常に美しい香りのお香でした。高価な香水も、その足もとに及ばないほどです。英国ではクリスマスに、多くの男性が妻やガールフレンドのために香水を買います。もちろん、一番良いものは、とても高価です。

去年のクリスマス、私はウェンディにフランス製の高級な香水を買いました。今週、まだウェンディがその一割くらいしか使っていないことに気づきました。ですから、あと9年くらいはそれを買わなくて済むようです。これも素敵な香りですが、乳香ほどではありません。

乳香は、幕屋や神殿で用いられました。また、王族のパレードなどの際も用いられました。乳香は、神の香と呼ばれ、おもに祭司が用いました。

旧約聖書の祭司は、神と人の仲介人でした。イエスは、人類を神のもとに帰らせるために生まれた赤ちゃんです。

ヘブル2:17と4:14-15には、イエスが大祭司であると記されています。これは、神につながる道を与えるというイエスの役割を、ユダヤ人に知らせるためです。

乳香は、イエスにぴったりの贈り物でした。

3. 没薬 — 死者にふさわしい贈り物

これもまた香の一種ですが、それほど高価ではありません。聖書の随所に登場します。ワインと混ぜて鎮痛薬として用いられました（マルコ15:23）。

また、他のスパイスと混ぜて、遺体の埋葬処理にも使われました。これは、ヨハネ19:39に登場します。

赤ちゃんの誕生のお祝いにこのような贈り物は奇妙に思えるかもしれません。なぜこのようなものが贈られたのでしょうか。

博士たちが、この贈り物の意味とイエスとの関連に気づいていたかは定かではありませんが、私たちにはそれがわかるはずです。ここからそのつながりは始まります。

先週も学んだように、イエスは「救い主」としてお生まれになりました。イエスはご自身の死によって、この世の最大の奇跡を起こされました。これは、完全ないけにえのための完全な贈り物です。

ヨハネ3:16神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。Ⅱコリント5:21神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです。

このクリスマス、最高のプレゼントは黄金、乳香、没薬ではありません。それは、イエス・キリストご自身です。

ヨハネ1:12しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

このクリスマス、このお方を心に迎え入れませんか。